

# 令和5年度病害虫発生情報第1号

令和5年8月3日  
千葉県農林総合研究センター長

## 「トルコギキョウ葉巻病」の発生拡大について

1 病原ウイルス：トマト黄化葉巻ウイルス

2 学名：*Tomato yellow leaf curl virus*(TYLCV)

3 作物名：トルコギキョウ

4 発生経過

- (1) 令和5年5月下旬に、県南部で栽培されているトルコギキョウで生長点部に葉巻症状を呈する株が確認され、管轄農業事務所を通じて千葉県農林総合研究センターに診断依頼があった（写真1、2）。
- (2) 同センター暖地園芸研究所生産環境研究室においてPCR法によりウイルス検定を行ったところ、*Tomato yellow leaf curl virus*(TYLCV)が検出され、トルコギキョウ葉巻病であることが確認された。
- (3) 本病はこれまでに県南部の一部地区でも発生していたが、今回の診断依頼により同地域内の他地区においても発生が確認された。
- (4) 本病の病原は*Tomato yellow leaf curl virus*(TYLCV)であり、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスと同一である。トマト黄化葉巻病については、平成17年から県内のトマトにおいて発生が確認されている。

5 本病の特徴

- (1) 発病した株では、節間が伸びずに萎縮する。葉は小型化して葉脈が浮き上がり、葉表を内側にして巻くことで舟形となる。また、葉の縁が黄化することがある。
- (2) 本病の病原ウイルスは、保毒したタバココナジラミによって永続的に媒介される。また、経卵伝染、汁液伝染、種子伝染、土壌伝染はしないとされている。
- (3) 病原ウイルスはトルコギキョウのほか、トマト、ミニトマト等に感染し、相互に伝染源となる。

6 防除対策

- (1) 薬剤防除のほか、栽培施設開口部への防虫ネット（0.4mm目以下）の設置、黄色粘着板の設置等により、タバココナジラミの侵入及び増殖を防ぐ。
- (2) 周辺で栽培されているトマト、ミニトマトについて、黄化葉巻病の発生がないか十分に注意する。
- (3) ほ場内及びほ場周辺の雑草はタバココナジラミの増殖源となるため、除草を徹底する。
- (4) 感染が疑われる苗や異常がみられる苗はほ場に持ち込まない。
- (5) 発病株は速やかに抜き取り、ほ場内及びほ場周辺に放置しない。埋却するか、ビニール袋に密封して完全に枯死させる。
- (6) 発病がみられた施設では、栽培終了後に蒸しこみ処理（40℃以上で10日間以上）を行い、タバココナジラミを死滅させる。

表 トルコギキョウのコナジラミ類に使用できる薬剤（例）（令和5年7月31日現在）

薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	希釈倍数・使用量	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤（4A）	発生初期	6回以内	2000倍	散布
スタークル/アルバリン粒剤（4A）	定植時	1回	1g/株（但し、10a当たり30kgまで）	植穴土壌混和
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤（4A）	発生初期	5回以内	2000～3000倍	散布
ベストガード水溶剤（4A）	発生初期	4回以内	1000倍	散布
ディアナSC（5）	発生初期	2回以内	2500倍	散布
エコピタ液剤	発生初期	—	100～200倍	散布
コルト顆粒水和剤（9B）	発生初期	4回以内	4000倍	散布
チェス顆粒水和剤（9B）	発生初期	4回以内	5000倍	散布

注 10a当たり散布液量は100～300L（スタークル/アルバリン粒剤を除く）

薬剤名の後の（）内はIRACによる作用機構分類コードを示す

スタークル/アルバリン粒剤とスタークル/アルバリン顆粒水溶剤を併用する場合、使用回数は合わせて5回までとする



写真1 罹病したトルコギキョウ



写真2 生長点部の葉巻症状

※写真1 管轄農業事務所改良普及課原図

写真2 千葉県農林総合研究センター原図

- ・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

- ・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問い合わせ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

